

小地域福祉活動を考える（その2：地域福祉と福祉委員）

12月号の「きずなだより」で福祉委員制度についてご紹介をしましたが、今回はこの福祉委員と地域福祉との関係について具体的な例をあげながら、話をしていきたいと思います。

*脳梗塞で倒れ、閉じこもりに

元気な頃は、近所でも評判の"おしゃべり好き"だったKさん（60歳）病気で倒れて閉じこもりきりに……



*昼間ひとり暮らし高齢者

Mさん（83歳）は、足の筋力が落ちて、今では居間のこたつで寝たり起きたりの生活。次第にもの忘れもひどくなり、このままでは寝たきりに……。家族は勤め、日中一人きり



これらの地域の課題を発見した福祉委員さんは、高齢者の皆さんが少しでも外に出て、地域の皆さんと交流をする機会をつくろうと、公民館を利用した"ふれあいいきいきサロン"を始めました！

*亡くなってから1週間後に発見

近所のことなら何でもわかると思っていた地域で、一人暮らしの方が死後1週間経って発見された



*お手伝いをしたいけど言い出せない

認知症高齢者を介護するCさん。私にできることがあればと思うが、お節介かも……



これらの地域の課題を発見した福祉委員さんは、地域の皆さんに呼びかけ、地域みんなが交代で、一人ぐらし高齢者や心配な方々の家をまわり話しをしたりする、"声かけ運動"を始めました！ そのときに気づいた課題があれば、地域みんなで話し合い解決しています。

これらに似た事例が福智町の各地域にもあることと思います。しかしこれらの課題を解決していくためには、福祉委員の活動だけではなく、地域のみなさんが一体となって地域の福祉力をつけていくことが必要です。そこで、誰もが安心していつまでも暮らせる町をつくっていくために、

福智町社会福祉協議会では、福祉委員制度モデル地区を募集します

希望される地域の方、またこのことについてもっと詳しく知りたいという方は、ご連絡ください。

福智町社会福祉協議会 地域福祉課 TEL: 0947-22-3778